



ちきゅう

発行人／吉岡正人広報委員長

発行／公益社団法人千種法人会

〒464-0067 千種区地下1-4-18 井上ビル3F

電話 (052) 763-0951

企画・編集／東海紙工株式会社・株式会社グラネット

印刷／東海紙工株式会社

<https://hojinkai.zenkokuhojinkai.or.jp/chikusa/>

医学博士
社会福祉法人 日本介助犬協会事務局長 常任理事

高柳 友子 さん





会長あいさつ
廣瀬光彦

会長あいさつ

公益社団法人千種法人会の第14回定時総会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

会員の皆様をはじめ関係各位におかれましては、日頃から千種法人会の活動に対しまして、格別のご理解と温かいご支援を賜り心からお礼申し上げます。

本日は、時節柄、ご多用の中、千種税務署から小池一彰署長様はじめ、多数のご来賓の皆様にご臨席を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、このところの活動を振り返ってみますと、令和7年度税制改正におきまして、物価上昇局面における税負担の調整の観点から、所得税の基礎控除等の見直しが行われるとともに、就業調整対策の観点から、大学生年代の子等に新たな控除が創設されました。引き続き税務協力団体として税務署等と連携を図りながら、「令和7年度税制改正に係る年末調整事務説明会」をタイムリーに実施し多くの方が受講されております。

そのほか会員の皆様方からの開催要望が多い研修会である①新入社員研修会②中間管理者研修会③やさしい法人税セミナー④改正税法研修会⑤源泉所得税研修会⑥自主点検チェックシート研修会など開催し、相当多数の会員の皆様にご出席いただいております。このような機会において、税に対するご理解を深めていただく事ができたと思っております。

その中でも税務署の皆様方にご協力いただいております新入社員研修会や中間管理者研修会は、それぞれに税務署の若手職員や幹部職員にもご参加していただきました。このように協力できる千種法人会として、皆様方と手を合わせて、握手して、そんな環境でご協力いただいたことを厚くお礼申し上げます。

また、地域社会貢献事業として実施しておりますさくらスーパーハカセも、おかげさまで今年13回目を迎えております。東山植物園の桜の回廊の100種1000本の桜は満開のタイミングで、好天に恵まれ子供をはじめ多くの方々が参加され、桜の名前を記録するとともに、バックパネルやフォトフレームを活用した写真撮影をするなど笑顔溢れる二日間でした。これからも地域社会貢献事業の充実に努めてまいります。

千種法人会は、「よき経営者を目指すものの団体」です。税のオピニオンリーダーとしてますます頑張っております。このように多くの会員が揃って参加し開催させていただきますのでご理解ご協力のほどお願いいたします。

最後になりましたが、税務ご当局をはじめ関係各位の変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げますとともに、会員の皆さまの益々のご健勝と事業のご繁栄を心より祈念いたしまして、誠に簡単ではございますが会長挨拶とさせていただきます。

広報誌「ちくさ」7月号 目次

第14回 通常総会	1
会員紹介ページ	2
表紙の人	4
高柳 友子 さん	
名古屋市内9法人会合同講演会	6
税務情報	8
report	10
事業委員会	
広報委員会	
女性部会役員会	
名古屋市内9法人会青年部合同事業	
愛知県法人会連合会 大規模法人経営者国税局長講演会	
女性部会講演会	
青年部会 確定申告PR街頭広報	
東海連 東海大会	
新入社員研修会	
さくらスーパーハカセ	
名東区民まつり	
上野支部役員会	
女性部会連絡協議会総会	
青年部会定例会	
青年部会連絡協議会総会	
総務委員会	
女性部会役員会	
監査会	
正副会長会	
理事会	
青年部会部会総会	
女性部会部会総会	
正副会長会	
税務連絡協議会 定期総会	
租税推進協議会 定例会議	
青年部会定例会	
女性部会役員会	
改正税法研修会	
デジタルインボイスの基礎的知識研修会(名古屋中昭和千種法人会合同)	
青年部会租税教室	



名古屋市栄市税事務所長
神谷勝美氏



名古屋東部県税事務所長
西尾一美氏



千種税務連絡協議会長
安達智氏

表彰式



会員増強表彰 目標達成支部 千石支部長 後藤和裕氏
会員増強表彰 目標達成支部 藤が丘支部長 柴田一成氏

記念講演会



小池一彰署長



記念パーティー



廣瀬光彦会長

小池一彰署長



培ってきた技術力と品質へのこだわりで
ものづくりの未来を支え続けます

精密部品の加工・製造・組立・品質管理まで一貫した生産体制を構築し、お客様の多様なニーズにお応えしています。長年培った加工技術と豊富な経験を活かした、多品種少量生産から、大ロットまで柔軟に対応。品質・納期・コストの最適なバランスを追求し、お客様の製品づくりを支えるパートナーとして信頼関係を大切にしています。常に技術力の向上と設備投資を進め、地域産業の発展に貢献できる企業を目指しています。



◎◎◎◎株式会社

代表取締役 名東 健一
〒464-0067
名古屋市千種区池下1-4-18号
井上ビル 3F
TEL : 052-763-0951
URL : vesta.ocn.ne.jp

会社や事業紹介のキャッチコピー

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

事業内容：会社概要や事業内容
やサービスを紹介。約200文字
までとなります。

写真

会社名

代表取締役 名東 ちくさ
〒464-0067
名古屋市千種区池下1-4-18号
井上ビル 3F
TEL : 052-763-0951
URL : vesta.ocn.ne.jp

**地域を知り尽くした経験と情報力で
理想の住まいと資産活用をサポートします**

〇〇〇〇〇不動産株式会社では、不動産の売買・賃貸・仲介・管理・資産活用まで幅広く対応しています。地域密着ならではの豊富な情報と経験を活かし、お客様一人ひとりのライフスタイルや将来設計に合わせた最適な提案を行っています。住まい探しはもちろん、土地活用や相続、空き家など不動産に関するさまざまなお悩みにも丁寧に対応し、安心して相談いただけるパートナーを目指しています。



◎◎◎◎◎不動産

代表取締役 千種 大輔
〒464-0067
名古屋市千種区池下1-4-18号
井上ビル 3F
TEL : 052-763-0951
URL : vesta.ocn.ne.jp

旬の味覚と心を含めたおもてなしで
笑顔あふれるひとときをお届けします

お食事処〇〇〇〇〇〇〇〇では、四季折々の食材を活かした料理と心を込めたおもてなしを大切にしています。ランチやディナー、ご家族でのお食事、ご宴会など幅広いシーンでご利用いただけるよう、居心地の良い空間づくりにも力を入れています。地域の皆様に愛されるお店を目指し、美味しい料理と笑顔あふれる接客で、心に残るひとときをご提供しています。



お食事処 ○○○○○○

代表取締役 名東 良太
〒464-0067
名古屋市千種区池下1-4-18号
井上ビル 3F
TEL : 052-763-0951
URL : vesta.ocn.ne.jp

専門知識と豊富な経験を活かし
企業と暮らしに安心を届けます

司法書士法人〇〇事務所では、会社設立や各種許認可、相続・遺言、契約書作成、法人支援など幅広い業務を行っています。専門知識だけではなく、お客様との対話を大切に、一つひとつの課題に合わせた最適な提案を心掛けています。初めにご相談いただく方にも分かりやすく丁寧な説明を行い、安心してご依頼いただける身近な専門家として地域社会と企業の発展をサポートしています。



司法書士法人〇〇事務所

代表取締役 名東 真一
〒464-0067
名古屋市千種区池下1-4-18号
井上ビル 3F
TEL : 052-763-0951
URL : vesta.ocn.ne.jp

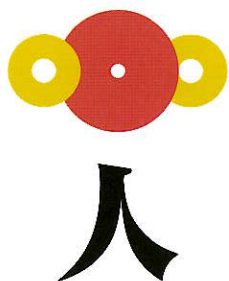
一人ひとりの可能性を引き出し
未来へつなげる学びを応援します

〇〇〇〇学習塾では、小学生から高校生までを対象に、一人ひとりの学力や目標に合わせたきめ細かな指導を行っています。学力向上だけでなく、自ら考え挑戦する力や学び楽しさを育てることを大切に、生徒の成長を全面的な視点でサポートしています。保護者とのコミュニケーションも重視し、安心して通える地域に根ざした学習環境づくりに取り組んでいます。



◎◎◎~~本~~學習塾

代表取締役 千種 悠介
〒464-0067
名古屋市中千種区池下1-4-18号
井上ビル 3F
TEL : 052-763-0951
URL : vesta.ocn.ne.jp



介助犬も盲導犬も聴導犬も 町なかで当たり前に見かける 社会であって欲しい。 誰も疎外されない社会実現が夢です。

社会福祉法人日本介助犬協会 理事長
医学博士リハビリテーション科
愛知医科大学客員教授

たかなき ともこ
高柳 友子さん

取材日時…令和8年6月4日(木) 10:30~12:30
取材場所…日本介助犬協会 介助犬総合訓練センター
「シンシアの丘」
聞き手…太田 照子 広報委員、遠藤 乱歩 広報委員、
不破 秀公 広報委員



不幸な捨て猫や捨て犬がいない社会にするために
何ができるかを考えた幼少期の思いが私の原点です。

——この仕事・活動をするようになったいきさを教えてください。

私は物心つく頃に2年ほどアメリカで暮らしました。帰国して幼稚園に行っても英語しか話せないで友だちもできず、居場所のない思いを抱えていました。その頃、町には捨て猫や捨て犬が結構いて、見かけるたびに何とか彼らを幸せにできないか、と思っていたのです。私の家にはペットショップで、いわゆる売れ残りそうな雑種犬を手に入れ飼っていたのですが、体が弱く医者である両親と一緒に手を尽くし、何とか元気を取り戻しました。コロという名前のその犬は、私の唯一の友だちで、大きな心の支えでした。そんな子ども時代の経験が今の私の仕事のルーツだと思います。

高校2年生になり進路は医学部か法学部かなどと思っていた折のことです。昔救うことができなかった子猫のことで出会った獣医さんが、いろいろと私にお話をしてくれました。獣医学部は日本では特に経済産業動物が中心で、獣医師のやれることには限界がある、だから医学部で人間の医療と同じような技術と知識を身につけて、自分にも教えて欲しいと言ってくれたことがきっかけで私は医学部へ進んだのです。

大学4年生の時、短期留学したアメリカで、介助犬と動物介在の分野に偶然出会い、心を惹かれました。卒業したら一刻も早く力をつけて早く活動を始めたいと思いました。逸る気持ちを抑え大学を中退せずに卒業したのは、人々が話を聞いてくれるだけの立場と力を持てという、眼科医の母からのアドバイスがありました。

研修医をした沖縄でのネットワークの広がり、
スーザン・ダンカンさん、シンシアとの出会い。

——活動が本格化する背景にはどんなことがありましたか。

医学部を卒業して沖縄県立中部病院で研修医をしました。ここは忙しいことで有名な病院で大変なのですが、すごくネットワークが広がりました。日本中、世界中で活躍されているお医者さんたちと仲間になりました。その後、舞鶴市民病院で内科医として勤務。その間に訪問活動などの活動を始めました。そもそも犬は汚いというお医者さんも少なからずいて、動物介在療法をするために人畜共通感染症に関する学位を取りました。そんな頃、今の前身となる介助犬協会が育てた介助犬シンシアを知りました。木村さんという頸髄損傷を負った方がユーザー

で、活動を始めており「介助犬」という言葉が聞こえてくるようになったのです。ところが介助犬をよく理解できていない人たちも多かったのです。私はその存在と実態を知らしめるため情報収集をしようと、アメリカで行われるカンファレンスに通いました。そこで人脈作りもしました。ただ、アメリカでも全く医学的背景もなく介助犬の訓練をしていることが多いのが実情でした。不安を覚えた矢先、多発硬化症という難病を患っている看護師さん、スーザン・ダンカンさんに出会ったのです。お話を伺うと「そうなのよ、あなたのような医者がやらなきゃいけないことなの」と。そこでまず一度ちゃんとした情報提供を日本でしようと思い、「スーザン・ダンカン来日招待講演会」を東京、名古屋、京都、大阪で開催。その時に介助犬シンシアやユーザーの木村さんにも協力してもらい、本格的に活動が始まりました。

「身体障害者補助犬法」の成立、しかし認知度と理解を
広げることが課題になっています。

——法律の制定にはご苦労があったのではないですか。

講演会を行った結果、トレーナーになりたいとか介助犬が欲しいといった相談が私個人に多く寄せられるようになり、1997年に「日本介助犬アカデミー」を設立したのです。一方国会では初めて介助犬に関する質問がありました。介助犬を法制化するべきではないかと…。そのことが報道され、また日本介助犬アカデミー設立の新聞記事を見た厚生省から連絡があったのです。学識経験者を集めて様々な話し合いをしていた頃のことでした。そこで科研費で国内外の実態調査や犬の育成に必要なこと、実際の適用のことなど、人部会、犬部会、社会部会に分けて多角的に研究を重ねました。5年間かけて研究報告書をまとめ、提出。それを基に補助犬法という法律ができたのです。

現在、盲導犬という名前を知らない人は多いと思うのですが、正しい理解をしている人は多くはありません。まして介助犬に至っては名前すら知られていないのが実情です。課題となっているのは知らないが故の同伴拒否があることです。先ほどお話ししたシンシアのユーザー木村さんが講演会の中でお話になったことは、「シンシアと一緒に生活し始めて、落としたり拾ってくれたり転倒しても携帯電話を持ってきてくれるから安心して暮らせるようになりました。生活が大きく変わりました。しかし歩外に出るとスーパーにも入れないし交通機関も使えない、これは法律がないからなのです」と。法律ができたこと

で社会の参加も可能になったわけですが、その法律を知っている人が少ないのです。

講演会での話は広がりを見せ、市議員、県議員、国会議員も動いてくれて、そのムーブメントがだんだん大きくなりました。その結果、盲導犬使用者たちも道路交通法しかないから困るとか、視覚と肢体障害だけじゃない、聴導犬というもある…そう言って当事者たちが立ち上がってロビー活動をし、私たち学識経験者がサポート、そして勝ち取った権利法なのですね。「身体障害者補助犬法」を正確に知ってもらうことがこれからも続く課題です。

人も犬もハッピーな気持ちでいられるために 知って欲しいこと。

——介助犬には向き不向きがあるのですか。

介助犬も盲導犬も基本的に犬種はほとんどレトリバーです。レトリバーは元々猟犬として繁殖され、特に水鳥猟の狩猟犬、ほぼ無傷で獲物を回収する器用な口を持っています。また人にも動物にも親和性が高いのも特徴ですね。元は猟犬ですが、今、育成しているレトリバーは全く別の犬と言えます。そうでないと介助犬には向きませんから。繁殖犬ボランティアさんのところで生まれ、パピーホームさんのところで生後2ヶ月から1歳まで暮らします。そしてトレーナーやユーザー、その家族など実に多くの方が関わります。それぞれ出会った人や物に対して、いい意味で執着することはありません。また乗り物や騒がしいところなど、どんな環境に行っても動揺することはありません。そのように育成しているからです。出会った人みんなを好きになり、それがどんどん積み上がっていくのです。そうでないと犬にとって多大なストレスになりますからね。

私たちが大切にしているのは、犬の個性を見極めながら育てていくこと。何をすれば褒めてもらえて嬉しくなるかをトレーニングで犬に伝えます。また得意なことと不得意なことは何か、それを人間側が見極められる力を持つことが大切。それがトレーナーのプロフェッショナルティーだと思っています。犬も人間も心地よくいられることが大事なことです。介助犬はどんな環境でも揺らがない鈍感力が求められますね。介助犬はユーザーさんのアイコンタクトを含めた言動に集中しますから、町で見かけても撫でたり見つめたりしてはいけません。

私たちの目標は、「介助犬とともにいつでもどこでも一緒に暮らせる地域共生社会の実現」です。

——日本介助犬協会では、育成・トレーニングのほかにもどのような活動をしているのでしょうか。

私たちは現在、障がい者がいるご家庭に対して、人と犬、両者の個性をマッチングして犬を譲渡する取り組みを行なっています。それが「With you プロジェクト」です。また動物介在活動、動物介在療法、付

添犬など「Dog Intervention」(犬による介入)を推し進めているところ。病院で安らぎと楽しみの時間を構築したり、患者さんに癒しを提供したり、虐待を受けた子どもの隣に寄り添うなど、犬による介入で意欲や笑顔を引き出すための活動をしています。ただ、この犬たちは介助犬と違って法律の対象外なので、社会参加ができません。でもトライアルで限定した社会参加場面を作り出していて、少しずつ門戸を広げていきたいと思っています。

こういったニーズはとて多くて、欧米でもさまざまな「見えない障害」を支えるサービスドッグが急増しています。でもしっかりと法的に管理されていないことでトラブルも起きているのです。やはりトレーニングが不可欠なのです。介助犬と同じように法整備と社会教育、いろんなことを整えていく必要がありますね。

また動物介在療法を導入してくれる病院が、日本中に増えることを願っています。医療従事者もきちんと理解するために、この補助療法を学んで欲しいと思います。病院は行きたくて行くところじゃありません。やむを得ず入院したりするわけでストレスを抱えて当然な場所です。それを和らげることで、患者さんにも医療従事者にも意欲や笑顔がもたらされると思うのです。

病院とか障がいとか、ピンチと思う局面をチャンスに変える…私たちはそんなマインドをサポートしたいと思っています。介助犬をはじめ動物と人間が笑顔で暮らせる社会のために、まずその存在、姿を知って欲しいです。「盲導犬クイール」の映画で、盲導犬のことが広く知られることになりましたが、あのように介助犬の映画を作ってもらえたらいいなと思いますね。



社会福祉法人 日本介助犬協会

本部

神奈川県横浜市港区新横浜2-5-9新横浜フジカビル3F

介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」

愛知県長久手市福井1590-51

Tel.0561-64-1277

HP <https://s-dog.jp/about-association/facility>

●プロフィール

1966年名古屋市生まれ。1991年愛知医科大学卒業後、沖縄県立中部病院研修医を経て舞鶴市民病院内科に勤務。1999年東京医科歯科大学医学部国際環境寄生虫病学分野大学院博士課程修了。1997年介助犬による障害者の社会参加推進を目的に日本介助犬アカデミーを設立。1998年～2003年厚生科学研究介助犬研究班にて調査研究し、身体障害者補助犬法制定に貢献する。医師として介助犬の普及啓発、介助犬を通じた障害者の自立・社会参加支援活動が続いている。2004年社会福祉法人「全国介助犬協会」設立、2007年に「日本介助犬協会」へ名称変更。2009年日本介助犬協会は日本初の介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」を愛知県長久手市に開所。2014年には身体障害者補助犬法の成立への貢献、介助犬の普及活動を通じての障害者支援尽力が認められ、東京弁護士会人権賞を受賞。日本介助犬協会は2023年Assistance Dogs Internationalの許可団体に承認されている。2023年社会福祉法人 日本介助犬協会理事長に就任。

《執筆・メディア実績等》

著書:「介助犬」(角川書店)、「介助犬を知る」(名古屋大学出版)、「動物と福祉」(明石書店)、「介助犬まんがマニュアル」(医歯薬出版)等。監修:「ありがとうジョーイ・モーゼス」(スーザン・ダンカン著)その他テレビ放映・ラジオ放送、各新聞掲載多数。